

ネットでは障害者が国会議員の仕事ができるのかの議論が起こっています。しかし、大政党の議員を見ていると、官僚の作った答弁書を読むだけで居眠りをしている人がいる実態があります。これを激務と呼ぶのか疑問を抱かざるを得ません。重度障害者であってもサポートを受けながら働くようになれば「生産性で人間の価値を測るような世の中」そのものが変わる契機になり得ます。

「れいわ新選組」の集会には今まで社会の主流から外れた少数者が多く集まっています。この場から新たな潮流を感じることができます。今後の活動の広がりに期待しています。

永瀬ユキ（日の出の森・支える会）



伊豆便り

田島征三

日の出の森廃棄物広域巨大処分場建設反対運動の中から三冊目の絵本が出るという。一冊目は「ゴミをぱいぱい・やまからにげてきた」（童心社）

この絵本は1993年2月出版、今ここにある本は2006年15刷目。「この絵本の印税は全て東京都西多摩郡日の出町につくられる東京都三多摩地域広域処分場建設反対運動に使われます」とあり、印税は直接運動事務局に送金され活動資金となつた。（現在は停止中）

1990年初から反対運動にのめり込み、創作活動



から離れた。そのことを親しい編集者Tさんが心配して、「処分場反対の絵本でも創れば・・・」と勧めてくれたが、ぼくはしぶった。××に反対するための絵本、すなわちベクトルの強い作品には不信感を抱いていたからだ。